

千住工場の建設

軍需の急増に伴って、桜川町二十七番地の芝工場だけではとても対応できなくなり、もっと広い工場の建設が焦眉の急となってきた。そこで、昭和十四年（一九三九）七月、千住工場（現在地 足立区大川町四四―十八）の建設に着手した。

候補地の条件は、第一に従業員の確保を最優先に考えて、周囲が住宅密集地帯であること、第二に大工場が進出してくる余地のないところの二点であった。とくに女性作業員が主力になるので、集めやすく、また交通機関を使わず、歩いて通勤できる範囲という考えであった。そうした条件にかなう適地が足立区の千住であった。そこは畑で千三百坪（四、二九〇平方メートル）あった。工場は木造平屋建て一棟面積百坪（三三〇平方メートル）であった。

当時は木材はじめ建築資材は統制のためなかなか入手できず、また入手には軍の許可を必要とした。このため工場は何とか建てたが、倉庫は長野県の民家二棟を購入して、そっくり移築した。新工場の敷地の中に、忽然として田舎家が出現して、奇妙なコントラストを描いた。従って、倉庫といっても、田舎家の間取りをそのままに使った。（次号へ続く）